

2024 年度 安全管理・調査(PV)エキスパート研修講座

主催 一般財団法人 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団

後援 日本製薬団体連合会

関西医薬品協会

日本ジェネリック製薬協会

一般社団法人 日本 CRO 協会

日本製薬工業協会

米国研究製薬工業協会(PhRMA)

日本 OTC 医薬品協会

日本 CSO 協会

公益社団法人 東京医薬品工業協会

一般社団法人 欧州製薬団体連合会(EFPIA Japan)

一般社団法人 ARO 協議会

公益財団法人 MR 認定センター

日程

2024 年 7 月 9 日(火)~10 日(水)、7 月 23 日(火)~24 日(水)、
8 月 6 日(火)~7 日(水)本研修は Zoom を利用した **webinar** です

研修会趣旨

ファーマコビジランス(PV)とは「医薬品に関連する有害な作用やその他の問題の発見、評価、理解と予防に関する科学と行動」(WHOによる)と定義されています。

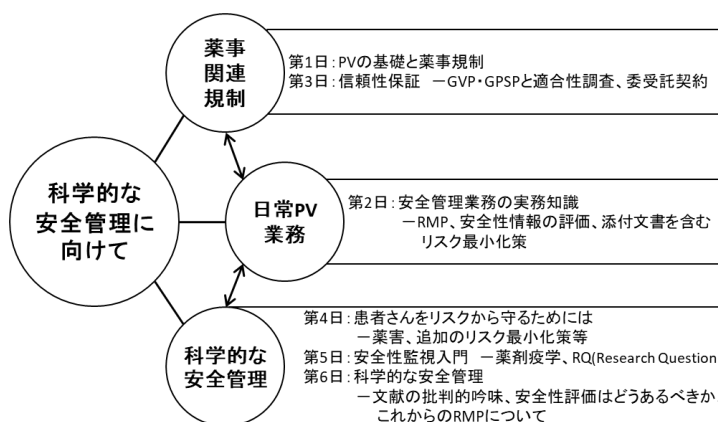
医薬品の開発・承認審査の段階では、安全性情報は不十分であり、患者さんを守るためには市販後の PV 活動が重要です。また医薬品市場のボータレス化が急速に進展し、新薬の国際的開発が日常化していることから、開発段階から市販後までの一貫した PV 活動の国際的水準での実施が求められる時代となりました。

そのためには製薬企業は医薬品リスク管理計画(RMP)を作成・実行することにより、医薬品のベネフィット・リスクバランスを最大化し患者さんに届けることが求められています。

今年度の PV エキスパート研修講座は、右図のように基本編を中心に構成し、製薬企業の安全管理部門の現職の方ばかりではなく、社内の治験の安全性担当者の方、メディカルアフェアーズ部門の方、新規に医薬関連事業に参入される企業の方、CRO 等において PV 業務を受託される業務担当者の方など、幅広い範囲の方に向けて開発段階から製造販売後に至るまでの PV 業務の基礎と実際に加え、RMP を理解するエキスパートとしての基礎知識を広く修得できる研修会となっています。

なお、講師の了承が得られた講義については、受講者に限り、期間限定(2 週間程度)でオンデマンド配信をいたします。また受講者全員に「修了証」を発行いたします。

本研修講座より一歩進んだ「医薬品リスク管理・基礎と実践コース」を 2025 年 1 月頃に、また、海外の PV 規制や海外提携企業との PV 契約、グローバル PV 監査等は、2025 年 2 月頃に専門コースとして企画中です。



対象者

医薬品等の PV/ PMS について、短期間に基礎的事項を体系的に修得することを希望されている方。特に、以下に関連する業務担当者等に最適な研修会です。

- (1) 安全管理部門、製造販売後調査・試験担当部門、メディカルアフェアーズ部門、薬事部門等における新入社員、配置転換者
- (2) 新任総括製造販売責任者、新任安全管理責任者、新任製造販売後調査等管理責任者
- (3) 安全管理部門、製造販売後調査・試験担当部門に既に配属され、現に業務を遂行されている PV 関連業務の担当者で、知識、技能の再整理を希望されている方

講演内容

① 7月9日(火) ファーマコビジランスの基礎と薬事関連法規

ファーマコビジランスの基礎と安全性に関する薬事規制について解説します。

10:00～10:05 開講の挨拶 奥田 晴宏(医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団)

10:05～10:15 オリエンテーションと用語の解説 古閑 晃(医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団)

10:15～11:05 第1講:ファーマコビジランスの基礎 久保田 潔(NPO 日本医薬品安全性研究ユニット)

11:05～11:15 休 憩

11:15～12:45 第2講:医薬品の安全管理・調査に係る薬事規制の動向と留意点 慶徳 一浩(BeiGene Japan 合同会社)

12:45～13:45 休 憩

13:45～15:45 第3講:副作用・感染症報告、研究報告及び外国措置報告と安全管理業務で使用される用語
— 治験薬、市販薬(コンビネーション製品を含む)の副作用・感染症報告、研究報告、外国措置報告及び留意点について、ワクチンの副反応報告、未知非重篤定期報告、感染症定期報告について
— 実務面から MedDRA(point to consider の紹介)、CTCAE 等安全管理業務で使用される用語について
上野 茂樹(武田テバ薬品株式会社信頼性保証本部ファーマコビジランス部)

② 7月10日(水) 安全管理業務の実務知識

安全性評価の基本的で、かつ最も重要な自発報告と集積報告、さらにはシグナル検出・評価について、実際にミニ演習で学びます。医薬品リスク管理計画(RMP)の意義と具体例、コアとなる安全管理業務(電子的報告、添付文書を含む情報提供業務)についての実務の概要を学びます。

10:00～11:00 第4講:日本の医薬品リスク管理計画(後発品を含む)について、その意義と具体例 北島 行雄(イーピーエス株式会社)

11:00～11:10 休 憩

11:10～12:10 第5講:安全性情報(症例報告、症例集積検討、研究・外国措置報告)の医学的評価と措置について(シグナル検出・評価を含む)
— 症例報告、症例集積検討、さらにはシグナル検出・評価について医学的評価を行ってみよう(バーチャルミニ演習)
原 満良(IQVIA サービスズジャパン合同会社ライフサイクルセイフティー)

12:10～13:10 休 憩

13:10～14:10 第5講:安全性情報(症例報告、症例集積検討、研究・外国措置報告)の医学的評価と措置について(シグナル検出・評価を含む)(続き)
— 症例報告、症例集積検討、さらにはシグナル検出・評価について医学的評価を行ってみよう(バーチャルミニ演習)
原 満良(IQVIA サービスズジャパン合同会社ライフサイクルセイフティー)

14:10～14:25 休 憩

14:25～15:55 第6講:リスク最小化策(追加も含む)としての医薬品の基本情報と使用上の注意等の改訂 鈴木 康予(中外製薬株式会社医薬安全性本部)

③ 7月23日(火) 信頼性保証

製造販売業許可に係る GVP 適合性調査への対応と、再審査申請資料の信頼性保証に関する GPSP 適合性調査への対応、並びに GVP・GPSP に関する委受託契約について学びます。

10:00~10:40	第7講:国内企業との委託安全確保業務に係る GVP 契約と委託製造販売後調査等業務に係る GPSP 契約と製造販売後データベース調査に関する契約 -GVP 契約及び GPSP 契約締結時の具体例及び留意点 武部 恭子(ヤンセンファーマ株式会社ドラッグ・セイフティ&サーベイランス統括部)
10:40~10:50	休憩
10:50~12:10	第8講:自己点検と信頼性保証について -法的根拠、品質管理(QC)、品質保証(QA)と監査、自己点検の流れ、リモート調査対応等 小泉 一馬(日本製薬工業協会医薬品評価委員会ファーマコビジランス部会)
12:10~13:10	休憩
13:10~14:05	第9講:再審査適合性調査について 田中 雅也(日本製薬工業協会医薬品評価委員会ファーマコビジランス部会)
14:05~14:20	休憩
14:20~15:05	第10講:製造販売業許可に係る GVP 適合性評価の実際 星川 典子(東京都健康安全研究センター広域監視部薬事監視指導課)

④ 7月24日(水) 患者さんをリスクから守るためには

開発から市販後までの一貫した安全管理を学びます。また、医薬品等行政評価・監視委員会委員、医療機関における病院薬剤師の立場から患者さんをリスクから守るために企業に望むこと、それらに対して企業は何をすべきかを学びます。

10:00~11:00	第11講:薬害を防止するために:製薬企業の役割と使命 佐藤 嗣道(東京理科大学薬学部薬学科)
11:00~11:15	休憩
11:15~12:00	第12講:治験段階から市販後までの一貫した安全管理 -治験年次報告(DSUR)、治験薬のリスク管理から医薬品リスク管理計画(RMP)、PSUR/PBRERの作成について -治験薬参照情報(DCSI など)、企業中核安全性情報(CCSI)、企業中核データシート(CCDS) 渡部 ゆき子(中外製薬株式会社医薬安全性本部)
12:00~13:00	休憩
13:00~13:45	第13講:追加のリスク最小化活動の評価について 石田 和彦(日本製薬工業協会医薬品評価委員会ファーマコビジランス部会)
13:45~14:00	休憩
14:00~15:30	第14講:医療機関におけるリスク最小化活動 -病院薬剤部におけるリスクコミュニケーションと実際の業務についての紹介 若林 進(杏林大学医学部附属病院薬剤部) 舟越 亮寛(亀田総合病院薬剤部)

⑤ 8月6日(火) 安全性監視計画入門

GPSP 省令改正に伴い、使用成績比較調査、データベース調査が追加となりましたが、そのためには薬剤疫学の基本を理解しておくことが必須です。そのうえで実際にリサーチクエスチョン(RQ)を作成することの重要性和製造販売後DB調査の実際について学びます。

10:00~11:30 第15講:リサーチクエスチョン(RQ)と安全性監視計画(PVP)と疫学の基礎
阪口 元伸(武田薬品工業株式会社日本開発センターファーマコビジランス部)

11:30~11:45 休憩

11:45~12:45 第16講:リサーチクエスチョン(RQ)とは
-実際にRQを作成してみよう (バーチャルミニ演習)
青木 事成(エビデンスベイスド)

12:45~13:45 休憩

13:45~15:15 第17講:事例に学ぶ安全性監視計画(PVP)、薬剤疫学と製造販売後の調査・試験
大場 延浩(日本大学薬学部薬剤疫学研究室)

15:15~15:30 休憩

15:30~16:15 第18講:安全性監視計画の考え方とリアルワールドデータの活用
渡邊 慎也(独立行政法人医薬品医療機器総合機構医薬品安全対策第一部)

⑥ 8月7日(水) 科学的な安全管理

薬剤疫学を理解するうえでの基本的な要素である文献の批判的吟味について、ミニ演習で学びます。さらに安全性評価の基本である情報収集・評価のあるべき姿を、締めくりとして、日本の医薬品リスク管理計画の課題と今後についてを学びます。

10:00~12:00 第19講:文献の批判的吟味と研究報告の作成
-薬剤疫学文献は批判的に読みこなすことが重要でそれを如何に研究報告中の報告企業の意見に反映するか (バーチャルミニ演習)
宮崎 真(アストラゼネカ株式会社研究開発本部ペイシエントセーフティ統括部)
村上 恭子(武田薬品工業株式会社ジャパンメディカルオフィスメディカルリサーチエクセレンス)

12:00~13:00 休憩

13:00~15:00 第20講:真に必要な情報とは、安全性評価はどうあるべきか
-開発後期及び市販後の臨床研究について、真に必要な情報を収集しているか、そもそも安全性評価はどのようにあるべきか
小宮山 靖(ファイザーR&D 合同会社バイオメトリクス・データマネジメント統括部)

15:00~15:15 休憩

15:15~16:15 第21講:これからの医薬品リスク管理計画に期待すること
成川 衛(北里大学大学院薬学研究科)

* 演題、講師、時間等一部変更する場合がありますので、予めご了承ください。

(敬称略)

申込み方法 受講希望の方は**注意事項**を確認の上、財団ホームページより申込み手続きを行ってください

- ① ホームページ(<https://www.pmrj.jp>)研修会内「開催一覧」の研修会毎にある **申込** ボタンより、画面の案内に従って必要事項をご入力ください。
- ② 申込み後、受付番号及び入金方法を受講受付メールにてお知らせいたしますので、受講料をお振込みください。
- ③ 受講料振込みを確認後、入金確認メールをお送りいたします。
- ④ 開催の1～3日前にwebinarに関するメールをお送りいたします。研修会当日にはメールに記載のURLより、webinarに入室してください。

受講料(1名につき;消費税込)

法人賛助会員(1口につき4名までが法人賛助会員価格)	83,000 円
行政/アカデミア/医療機関/学生	83,000 円
個人賛助会員	124,500 円
非会員	124,500 円

注意事項

申込みについて

- ・申込み期限は、研修会開催日(複数日開催の場合は初日)の **4 営業日前**です。
- ・受講されるご本人のメールアドレスでお申込みください。
- ・個人賛助会員として申込みの場合、ご本人の受講に限ります。
- ・申込み後に受講受付メールが届かない場合はご連絡ください。
- ・入金前のキャンセルは開催 4 営業日前までにご連絡ください。それ以降のキャンセルはできません。
- ・入金後のキャンセル、返金及び他研修会への振替はできません。

受講料振込みについて

- ・開催前日までに受講料をお振込みください。振込みが遅れる場合、開催 4 営業日前までにご連絡ください。
- ・受講申込みの方全員に受講受付メールとは別に、クレジットカード決済案内メールを送ります。
クレジットカード決済ご希望の方は、記載の URL にアクセスし、お手続きください。
- ・銀行振込の「ご依頼人欄」又は郵便振替の「通信欄」には受付番号・受講者氏名をご記入ください。
ご記入できない場合、①受付番号、②受講者氏名、③振込(予定)日、④振込先(みずほ銀行/ゆうちょ銀行)、
⑤振込名義、⑥振込金額を事前にご連絡ください。
- ・入金確認メールをもってインボイスに代えさせていただきます。入金確認メールは研修会開催後になる場合があります。

申込み・受講料振込みに関する連絡先:expert.kenshu@pmrj.jp

研修会当日・受講について

- ・資料はPDFファイルとしての配布になります。印刷等をご自身でご対応ください。研修会前日までにwebinar入室用URLとともにご連絡いたします。
- ・複数日程開催の場合、日ごとに受講者を変更することは認められません。
- ・**録画・録音・撮影、及び資料の二次利用は固くお断りいたします。**研修会内容の盗用が発覚次第、著作権・肖像権侵害として対処させていただくことがあります。

問合せ先



一般財団法人 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 研修担当

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 / Mail expert.kenshu@pmrj.jp / Tel 03-3400-5644